

西宮市医師会看護専門学校 令和4年度 自己評価および学校関係者評価結果

○自己評価および学校関係者評価の経緯と概要

2003年に看護師等養成所の教育活動に関する自己評価指針が示され、本校においても教育の質向上に向け、2004年度より自己点検・自己評価委員会を立ち上げ、厚生労働省の自己評価指針¹⁾をもとに自己点検・自己評価への取り組みをはじめました。

指針をもとに約10年自己評価活動に取り組んできた結果、授業運営にかかわる教育課程経営や教授学習評価過程に関する評価は、ほぼすべての項目が高い評価となっています。しかし、国際交流、研究に関して評価点は低いままで経過していました。そこで、本校の厚生労働省の自己評価指針をそのまま使用することが本校の教育理念に合致しているのかを含め、本校の自己点検・自己評価のありかたについて改めて見直し、自己点検・自己評価委員会において本校の教育理念を基本に、厚生労働省の自己評価指針¹⁾、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」²⁾も参考にしながら、本校の自己点検・自己評価指針を作成しました。

本校は西宮市医師会定款に示す医療技術者の養成に関する事業を受けて運営されており、地域に密着した看護サービスが提供できる看護の実践者を育成することにあると教育理念にあげおり、教員の研究活動より学生の教育活動に重点がおかれるのは当然であると考え、これまで、一つの Kategorie として取り扱っていた Kategorie IX「研究」については、教育活動の充実に関する下位項目ととらえ、評価 Kategorie を整理しました。その結果、2015年度より評価指針を6 Kategorie に整理し、Kategorie ごとに下位項目、評価内容を作成し、評価しています。令和元年度には自己点検・自己評価委員会を自己評価委員会と改称し、あらたに学校関係者評価委員会も立ち上げ評価を行いましたので、2022年度自己評価結果および学校関係者評価について報告します。

1) 厚生労働省

「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/07/s0725-5.html> 2020年3月アクセス可能

2) 文部科学省

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく学校評価マニュアル
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.html 2020年3月アクセス可能

学校関係者評価

西宮市医師会看護専門学校は、令和5年5月25日に「2022（令和4）年度」の自己評価結果報告書」をもとに、学校関係者評価を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

令和5年5月26日

西宮市医師会看護専門学校

学校関係者評価委員

- 1) 臨地実習施設関係者 依藤 泰子
- 2) 元教職員 井上 晃一
- 3) 卒業生 前 佳美
- 4) 講師 嵩原 英喜

評価カテゴリーごとの学校関係者評価・意見

I 教育理念・ 教育目標	・医師会立として地域の保健医療の向上を図るため、1年次より西宮市の特徴や地域の人々の暮らしを知るための教育内容を取り入れていることは評価できる。しかし、これに固執することなく、質の高い看護師を一人でも多く育成することが重要である。看護系大学が多い阪神間においては、大学にはない看護師養成所の特徴、強みをPRして欲しい。そのためにもカリキュラム編成においては医師会立の特徴が分かるように表現できることを期待する。
II 教育活動	・令和4年度より新カリキュラムがスタートし、電子書籍の導入やICTを活用した教育方法を取り入れる方向へシフトしている。さらにICTに関してはコロナ禍に大きく進展したが、AIに負けないものを見つけていくことも課題である。臨床現場の状況としては、若者はタブレットには慣れているが、キーボードの操作は不慣れなため新規採用者は電子カルテの入力に苦戦している。現代の若者の特徴でもあり、今後は病院側がタブレットを導入する方向になると考えるが、そのような背景もふまえて教育方法を検討する必要がある。また、教員のICT活用のスキルアップに向けた取り組みは継続して欲しい。 ・コロナ禍における臨地実習時間が減少したことも影響し、新卒者の離職率が上昇している。新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、病院での感染対策は緩和することが難しい現状にある。それらをふまえて、今後も感染状況に応じた講義方法や実習方法を考える必要がある。 ・昨年度の課題であった教員の研究活動については改善傾向がみられる。コロナ禍で業務が多忙な中、研修活動に取り組んだことは評価する。教育実践力の向上のため、今後も継続されることを期待する。 ・1年生のカリキュラムアセスメント（ルーブリック評価）の自己評価結果を教員間で共有し、次年度の授業内容や方法などの検討が行われていることが理解できた。現在実践している「自己点検・自己評価」や「学校関係者評価」に加え、第三者評価の実施を検討してはどうかと考える。
III 経営・管理 過程	・学校経営・運営は適切にできている。大規模補修工事により施設設備を整えているが、建物の老朽化に対する維持費が増していくと予測する。受験者数が減少し、学校の経営に影響があると思われるが、学生の負担増にならないよう長期的に考えて経営基盤を安定させる努力をして欲しい。

IV 入学	<p>・社会人学生が多いのは大学との大きな違いである。経験があり多様な価値観を持つ人々とともに学びたいと考える高校生もいる。社会人の志願者を増やすような戦略も視野に入れてはどうか。高校生の大学進学志向はますます強くなる。阪神間などの都市部では大学数も多く、看護師養成所は学生の確保が厳しい状況であることは理解できる。その中においても看護系大学と養成所の違いを明確にし、強みをPRし学生確保に努めて欲しい。</p>
V 卒業・就業・進学	<p>・就業や進学について、進路指導により適切な進路選択ができています。</p>
VI 社会貢献・地域貢献	<p>・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、ボランティア活動の制限が緩和されるため地域社会に貢献する機会は増すと考える。ボランティア活動を通して看護学生として必要なことも学ぶ機会となるため引き続き感染対策を講じながら、積極的に活動して欲しい。</p>

令和4年度 自己評価

カテゴリごとの自己評価概要

<p>I. 教育理念・目標</p>	<p>今年度より新カリキュラムが始動した。医師会立として引き続き地域保健医療の向上を図ることを基盤に、『地域に暮らす人々の健康や状況に応じて看護が実践できる人材を育成する』という理念のもと、教育目的、ディプロマポリシー（以下DP）、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを策定し、教育内容を抽出しており、本校の特徴が明確になった。旧カリキュラムの教育目標については、卒業時の行動特性に対する自己評価アンケートの結果により概ね達成していることが確認できた。</p>
<p>II. 教育活動</p>	<p>教育課程編成の考え方と具体的な構成に基づきカリキュラム運営を行っている。学生へは学生便覧と履修の手引きを配布し入学時及び各学年の前・後期ガイダンスで説明している。</p> <p>令和4年度から新カリキュラムの運用が開始された。これまで評価したことをふまえ、学生には教育理念からつながるDPにより3年間で身につける力を明確にし、分野と科目とのつながりも、構造図・カリキュラムマップで表現し、よりわかりやすい形となった。また、科目名も学生が何を学んでいるか理解しやすいような表現を用いた。そのため、一貫したカリキュラム編成となったと考える。さらに今年度より電子書籍を導入し、Wi-Fi環境も整えたことで、ICTの活用の幅もさらに広がった。テキストの持ち歩きが楽になり、学生はあらゆるテキストから調べることができるようになった。また動画をとり自分の技術を振り返ることも可能となり習得方法の幅もひろがった。iPadがあることが当たり前となり、今後教員のICT活用のスキルアップが求められる。</p> <p>昨年度に引き続き、コロナ禍で感染予防策を重視した臨地実習であったが感染管理をしたうえで臨地での実習が可能となった。反面、学生のコロナ感染などによる補習実習の増加や科目の追試験が増加した。結果、学生個々への対応が増え業務が煩雑になるケースも多くあった。それらの調整で業務量が増加したため、教員は時間に余裕がないと感じている。研究への取り組みも必要性は理解しているが、後回しになってしまったのはこれらが原因と推察する。</p> <p>カリキュラムの評価について、1年生はカリキュラムアセスメント（ルーブリック評価）を学年終了時に提示し自己評価を行った。結果は教員会議で共有し改善点を協議している。</p>
<p>III. 経営・管理課程</p>	<p>意思決定システムとして運営会議（医師会）・運営会議（学校）・教員会議が明示されており、日常のミーティングと諸会議で全職員の意思決定ができています。</p> <p>日本学生支援機構、市内医療機関等の奨学金について説明会を実施して希望者の便宜を図っている。新たな支援制度ができればその都度対応しており、現在専門実践教育訓練の指定校となっている。今年度の高等教育無償化による授業料等減免補助事業による対象者は、36名。給付・貸与奨学金等のおかげもあり、授業料等はほぼ全員が期限内に納められた。</p> <p>今年度は、校舎の大規模補修工事を実施し、施設設備の充実を図った。また学生用Wi-Fiを設置し、電子書籍の利用やICT活用に向けた環境を整備した。</p> <p>コロナにより臨地実習に行けない部分を補うための「教育用電子カルテ」は契約を更新した。経年劣化した校内実習用介護実習モデル2体、授業用の液晶プロジェクター2台、ノートパソコン2台を買い換えた。</p> <p>コロナ禍でも教育に関する研修を受講できるよう教員の学習支援システム「Nursing Education Online (NEO)」を契約するなど本年度予算計上通りに整備できた。</p>

IV. 入学	入学選考に関する規程を定め入学者選抜を公正に実施している。入学試験委員会において過去の入学状況を参照し、選抜方法について検討している。例年どおり校内でのオープンキャンパス、学校説明会の実施及び高等学校等で開催の進学相談会に参加した。令和5年度入学試験より、推薦入試の受験科目を国語総合1科目へ、社会人入試の受験科目を国語1科目へ変更した。出願数は、推薦・社会人入試は微増、一般入試1次は、1割強減少、2次入試は、4割強減少となった。今後の対策を検討する必要がある。
V. 卒業・就業・進学	進路指導を実施し、概ね適切な進路選択ができています。卒業時に教育目標に沿ったアンケートを行い概ね到達目標は達成されている。卒業時の就職状況調査で就職、進学について把握しており、次年度の就職指導に役立てている。令和元年度就職病院に聞き取り調査を実施し、本校卒業生の成長と課題を明確にし、教育内容の検討に活用した。令和2年以後、新型コロナウイルス感染症による影響があり、実習指導時と実習指導者会議での情報収集のみになっている。
VI. 社会貢献・地域貢献	<p>令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症のため学校祭は中止したが、今年度は、学生と教職員のみで開催した。ボランティア活動については、実習施設や近隣施設から要請はなかったが、甲子園ロータリークラブ主催「小学生野球選手のメディカルチェック」と西宮市社会福祉協議会「ふれぼの」の計2回に参加し、地域との交流も再開しつつある。</p> <p>高校進学ガイダンスに毎年50回前後参加し進路相談を実施していたが、コロナ禍においては減少傾向にあった。今年度は、依頼回数も40件程度減少しており参加回数も昨年度より減少した。本校での学校説明会、オープンキャンパスについては、昨年度より参加者数制限を緩和し感染予防に留意して行った。参加者数は、コロナ前の6割程度まで回復した。</p> <p>令和4年度の新カリキュラムより新設科目「地域の特徴と人々の暮らし」において、学生がフィールドワークし地域の特徴をまとめ発表している。この科目を通して西宮市の歴史や特徴についての理解はできてきた。またフィールドワーク時に地域の人々とコミュニケーションを図っており、限定的ではあるが看護学校の存在を認識頂けている。</p>

